



八束のひろは

～八束公民館報 第25号～

発行：松江市八束公民館運営協議会 〒690-1404 松江市八束町波入2060 Tel(0852)76-3663 Fax(0852)76-3669

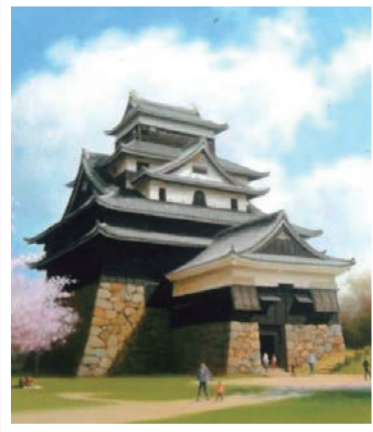


牡丹

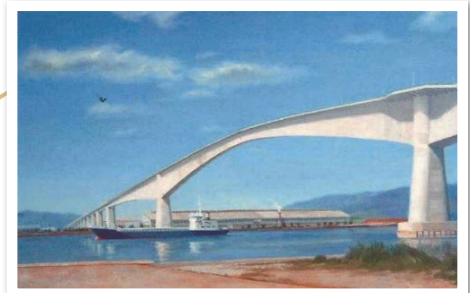


観音寺 天井画

美しい山陰



国宝・松江城天守



中海・江島大橋



天井画制作風景：アトリエにて

海の無い埼玉県で育ちました私には、山陰の風景は大変新鮮でした。最初は妻に教えられた入江の廃船と、嫁ヶ島に似ている京島風景を描き、それから島根半島の海の色の美しさに感動しながら、美保関灯台、惣津、大苧須々海海岸等、また江島大橋、四季の大山と数え上げれば切りがないほど色々描きました。松江城を見た時には、その存在感と美しい姿に感動し立ちすくむほどでした。若い時にレンブラントの自画像を見た時と同じ感動でした。

「人生は短く、芸術は長し」と言われますが、一日でも長く絵筆を持つことを願いつつ八束町の牡丹、美しい山陰の風景、結実シリーズの果実を配した静物画をこれからも描いていこうと思います。

その竹谷住職より、観音寺再現に際し、天井画の制作依頼をお受けしたのが、平成十三年の秋でした。半畳の征目板を二十枚縦横交互に天井に配置することや、中心に向けて絵を並べること、また刺の無い花という諸条件を基に図面を書き、白華山観音寺という名にちなんで白を基調に四季の花を選び、①花のスケッチ、②実寸大の画用紙に構図を考え下絵を描き、③下絵を透写紙に写し、④それを板に写し着色して本画完成、という手順で制作に没頭。そのような充実した月日を経、十四年に二十点を描き上げました。画家冥利に尽きる仕事をいただき感謝しています。ご縁が結んだ天井画でしょうか。

私は、「小江戸川越」と呼ばれ、蔵の街としても知られる埼玉県川越市の出身です。縁あって大根島の女性と結婚し、平成十二年(2000年)春に、八束町遅江に転居しました。同年秋には、町民会館で絵画展を開催し、町内外の多くの方々にご高覧頂きました。また、観音寺(波入)の先代竹谷玄教住職のお誘いで、波入絵手紙サークルの方達と世界遺産になりました石見銀山遺跡、三瓶山へのスケッチ旅行に同行したことも良い思い出です。



美を求めて
花・風景・静物を描く
画家 門脇政男
(八束町遅江在住)

町内コミュニティバス 運行の現状

安部（敏）…町内コミュニティバスの運行は、平成17年3月の市町村合併前に、鳥取県境港市間の



〈左から（敬称略）〉 渡部建志、安部敏樹、齊間康浩、安部吉輝、橘一秀

渡部…私は、八東地区高齢者クラブ

公共交通空白地域解消対策として導入されました。その後、コミバス利用促進協議会での話し合いや住民アンケート等により、現在のコースとなっています。しかしながら、運行便数が1日3往復と少なく、1便当たりの乗車人数も2人程度と乗合運行としては厳しい状況にあります。このような現状を踏まえ、昨年の12月16日に「八東町の公共交通を考える会」を立ち上げました。本日は、「考える会」役員で各団体の会長さん方にお集まりいただき、それぞれの立場から、ご意見をいただきたいと思っています。



渡部 建志さん
(寺津)

連合会を代表して、コミバス利用促進協議会に係わっています。平成29年には、利用促進を目的に全地区を対象にアンケート調査を実施しました。当時、入江、二子、寺津、亀尻地区は運行していませんでした。調査したところ全地区に乗り入れてほしいといった回答が多くあり、また今は自家用車を運転しているが、将来はコミバスを利用したい、

橘…今、八東地区社会福祉協議会の会長として地域福祉に携わっています。私自身、団塊の世代で間もなく後期高齢者の仲間入りです。その団塊世代が、2025年には75歳以上になる、いわゆる「2025年問題」(人

安部（吉）…私も、八東地区自治会連合会会長の立場から、コミバス利用促進協議会に係わっていますが、渡部会長の話にもありましたが、当初のコミバスは全地区を運行していませんでした。特に、二子、寺津、亀尻地区は松江市街地方面行きの市バス便も少なく、中央のスーパーマーケットにもタクシーや歩いていく状況でした。今回、是非とも交通弱者への対策に取り組みたいですね。

特集
第13回
座談会

地域課題シリーズ③

『町の公共交通を考える』

八東町内に住む運転免許所有者の日常生活は、自ら自家用車を運転し、町内外のスーパーマーケットや病院等に出かけています。しかしながら今後、高齢等を理由に運転免許証を返納すれば、その日から自家用車の無い生活となり、公共交通（バス）に頼るしかありません。今回、長寿（交通弱者）社会に対応できる公共交通のあり方について検討しました。（新型コロナウイルス感染症対策に配慮して実施。）



安部 吉輝さん
(二子)

といった意見が多く寄せられました。あれから5年になり高齢ドライバーは益々多くなっています。

口と労働力、医療、介護、社会保障費、空き家」も間近に迫りましたが、地方ではもう一つ交通弱者への対策が大きな問題となっております。皆さんが元気で安全に安心して暮らせる八東町にしたいですね。



安部 敏樹さん
(江島)

安部(敏)：本町は、地形的には起伏の少ない二つの島で、集落内は狭隘で幅員の狭い道路もありますが、そこを除けば東西南北網目状に道路が整備されています。また、JR境港駅まで10〜15分程度と立地条件の良い町です。現在のコミュニティバスの運行を抜本的に見直す必要があるのではないのでしょうか。本日は、松江市役所の齊間交通政策課長にお越しいただいています。「考える会」でもアドバイザーとして参加いただいております。市の新たな交通施策等についてご説明願います。

新交通

「AIオンデマンドバス」導入

齊間：本日は、ご案内いただきましてありがとうございます。

齊間：本日は、ご案内いただきましてありがとうございます。昨年の12月から「八東町の公共交通を考える会」のアドバイザーとして参加させていただいています。この間、皆さま方のご意見を聞かせていただきましたが、今、公共交通の運行は大変厳しい状況にあります。そうした中であつて、本町はこの問題にいち早く対応されており、ことに、敬意を表します。さて、高齢化社会における公共交通のあり方につきましては、皆さま方から色々なご意見をいただきました。そうしたことを踏まえ、市としてご提案できますのは、「次世代型(AI)オンデマンドバス」交通です。下のイラスト図をご覧くださいと思います。現行の「コミバス」



齊間 康浩さん
(市交通政策課課長)

橘：改めて、齊間課長から新たな試みの「次世代型(AI)オンデマンドバス」について説明していただきました。この内容につ

との大きな違いは、時刻表が無く、電話かスマホで予約し、自宅付近の乗り場から目的地周辺まで乗車できるバスです。利点は、①コミバスに比べ寄り道が少ないので移動時間が短い。②乗りたい時に電話かスマホで呼べる。③当日予約や事前予約、往復予約ができる。④自宅に近い公道沿いに「乗降場所」を設置するため、徒歩での移動距離が短い、などです。

次世代型(AI)オンデマンドバス

■現行のコミュニティバスとの違いは？

＜イメージ図＞

コミバスよりも寄り道が少ないので移動時間が短くていいね。乗りたい時に呼べるのが便利。時刻表を気にせずに利用できるね。

当日だけではなく事前予約もできます！往復のご予約もできますよ。乗降場所も増えて、ウェルデや吉岡医院・門脇医院もいけます！

※現行の八東町・JR境港駅方面も運行します。

- 《座談会 メンバー》
- ①市交通政策課 課長 齊間 康浩
 - ②八東地区社会福祉協議会 会長 橘 一秀
 - ③八東地区自治会連合会 会長 安部 吉輝
 - ④八東地区高齢者クラブ連合会 会長 渡部 建志
 - ⑤八東公民館運営協議会 会長 安部 敏樹

(*後日、八東地区コミュニティバス利用促進協議会に提案し、令和5年度からの実施に向けて了承された。)



橘 一秀さん
(入江)

いては「考える会」でも提案され協議しましたが、委員の皆様にはご理解をいただいております。本町での取り組みとして十分検討に値する内容ではないかと考えます。この試みを進めていきたいと思えます。つきましては、この検討結果を「八東地区コミュニティバス利用促進協議会」に提案したいと思えます。本日は、お忙しい中、ありがとうございました。

中村元博士が残した『慈しみあふれる言葉』を紹介します⑦

松江市出身でインド哲学・仏教学の世界的権威、中村元博士が残した慈しみあふれる言葉を、八束町中央の「八束複合施設」正面玄関東横にある掲示板で毎月紹介します。掲示内容は「中村博士自身が述べた言葉」の中から、中村元記念館の加藤千乃学芸員が選び、公民館で書道を学ぶ「中央書道サークル(橘淳子代表)」のメンバーが中心となって毛筆でしたためます。



市立義務教育学校八束学園 葛西秀也学園長を囲んで、9年生(学園生会役員)の皆さん

令和三年十二月掲示

依正不二

中村元のことば

【出典・解説】
中村元博士が自然について述べた言葉。
「一だから、人間存在とまわりの自然環境は決して別のものではない。依正不二という天台の言葉では、こういうことを教えてくれている。(中略)われわれは自然界に対して人為的な力を加え、働きかけて生きていくわけです。しかし、全体として自然を生かし、しかも自然とともに生きていくということが必要です。その道が求められねばならない。そういう意味での自然に随順して生きようということ、仏典の中にいろいろ教えられています。」
(中村元「人生を考える」より)

令和四年一月掲示

諦める

中村元のことば

【出典・解説】
中村元博士が仏教の四つの尊い真理(四聖諦)について述べた中の言葉。
「一言言いましたように、今日の日本語では諦めるというのは断念する、放棄するという意味に用いられていますが、それは事象を明らかに見極めるという意味から変化した意味です。人間関係は複雑で昔も今も変わりがなかったと思います。その事象を明らかに見極めることが大切で、これが原始仏教の説くところだったんですね。」
(中村元「温かなこころ」より)

令和四年二月掲示

重々無尽

中村元のことば

【出典・解説】
中村元博士が自己について述べた言葉。
「しかし考えてみますと、他人から切り離された自己というものはあり得ません。また、自分の生きていく環境から切り離された自己というものもあり得ないわけで、自己が形成されるためには、いろいろな原因、条件、状況が加わっているのです。つまり、ぼつんと抽象的な自己というものがあつてはならないということです。仏教的にこれを表現すれば、華嚴の思想でいう『重々無尽の縁起』の関係となるでしょうか。」
(中村元「仏教の神髄」を語る)より)

令和四年三月掲示

善は急げ

中村元のことば

【出典・解説】
中村元博士が悪の抑止について述べた中の言葉。
「一そこで善の実行と悪の不実行とは楯の両面であると考えられるのです。『善によって悪に打ち克て』『身と口と意との悪い行いを捨てて、身と口と意とによって善を行え』(『ダムンパダ』) 仏教では、しかも『善は急げ』ということを強調する。人はいつ死ぬかわからないからです。」
(中村元「仏教の神髄」を語る)より)

あとがき

大根島⑦ 「栽培技術」

大根島の牡丹は、明治15年(140年前)、兵庫県宝塚市等から持ち帰った「上方牡丹」が、現在の改良種栽培の始まりとされています。

昭和30年(67年前)頃から、芍薬を台木に牡丹の芽を接ぐ技術により、生産量が飛躍的に増え、海外にも輸出。

平成元年(33年前)には、牡丹苗に人工的に冬の気候を感じさせる花木低温技術を開発。これは苗の生育を一定期間低温で抑制し、9月頃からハウスに移して加温する技術です。年末から正月にかけて東京市場等に出荷すると、冬に咲く切り花牡丹が一大ブームとなりました。現在は、鉢植え牡丹が贈答用として出荷されています。

長年、生産者の栽培技術や新品種作出の努力により、350品種以上の牡丹が栽培されています。(池)